

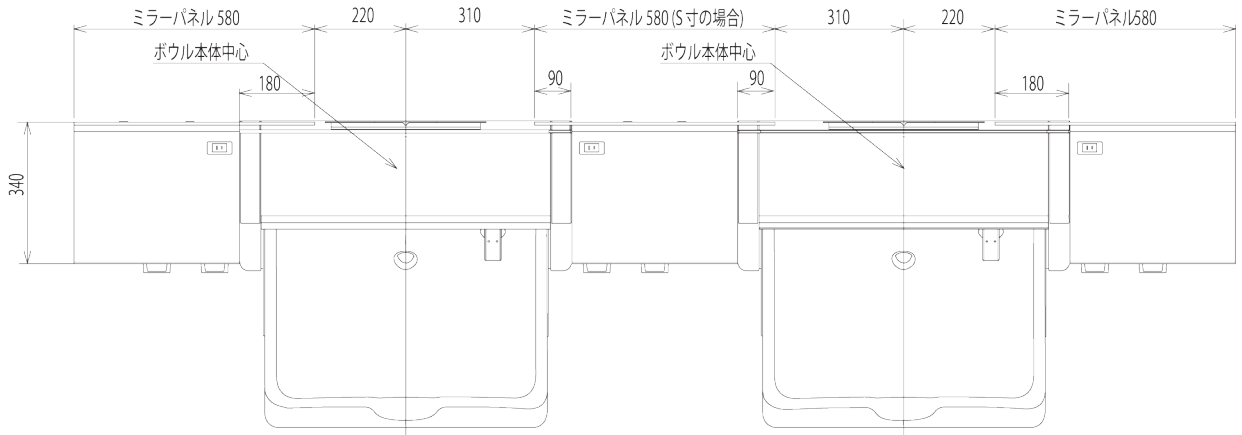
設置の前に

全体レイアウト図

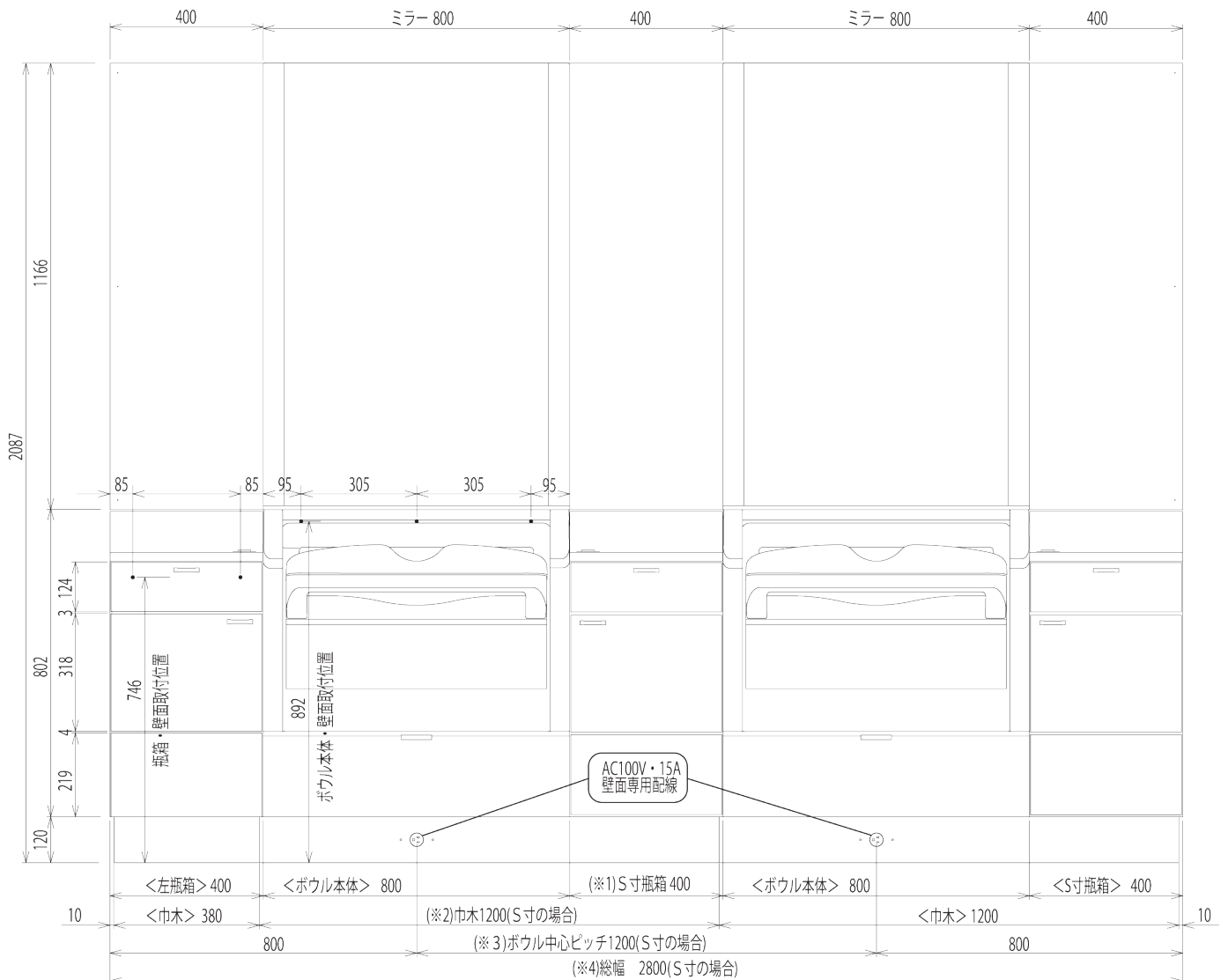
<外観寸法図>

ボウル本体：P1-EX**、瓶箱：KF-EX3S*R[3ドア右仕様]、瓶箱：KF-EX3S*L[3ドア左仕様]、巾木：KF-EX380、KF-EX1200、ミラーサイドパネル：KF-EXSP*580(別売)、ミラー：KF-EXM800(別売)

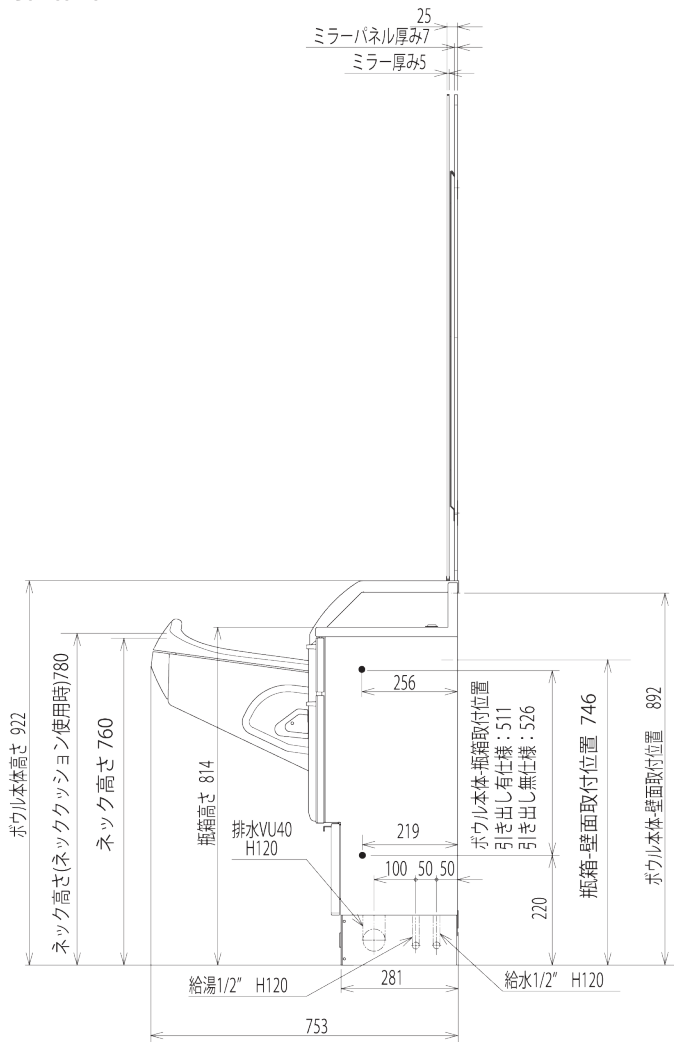
■上面図



■正面図



■側面図



<部品構成表>

構成表	本体 単独使用	1セット		2セット			3セット				4セット				5セット			
		S寸	S寸	450寸	L寸	LL寸	S寸	450寸	L寸	LL寸	S寸	450寸	L寸	LL寸	S寸	450寸	L寸	LL寸
エクセラ本体	1	1	2	2	2	2	3	3	3	3	4	4	4	4	5	5	5	5
瓶箱	左専用 400幅	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	S寸 400幅	1	2	1	1	1	3	1	1	1	4	1	1	1	5	1	1	1
	450寸 450幅			1				2				3				4		
	L寸 500幅				1				2				3				4	
LL寸 650幅					1				2				3				4	
巾木	左専用 380幅	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	S巾木 1200幅	1	2	1	1	1	3	1	1	1	4	1	1	1	5	1	1	1
	450寸 1250幅			1				2				3				4		
	L巾木 1300幅				1				2				3				4	
	LL巾木 1450幅					1				2				3				4
単独巾木 780幅	1																	
総幅 (mm)	800	1600	2800	2850	2900	3050	4000	4100	4200	4500	5200	5350	5500	5950	6400	6600	6800	7400

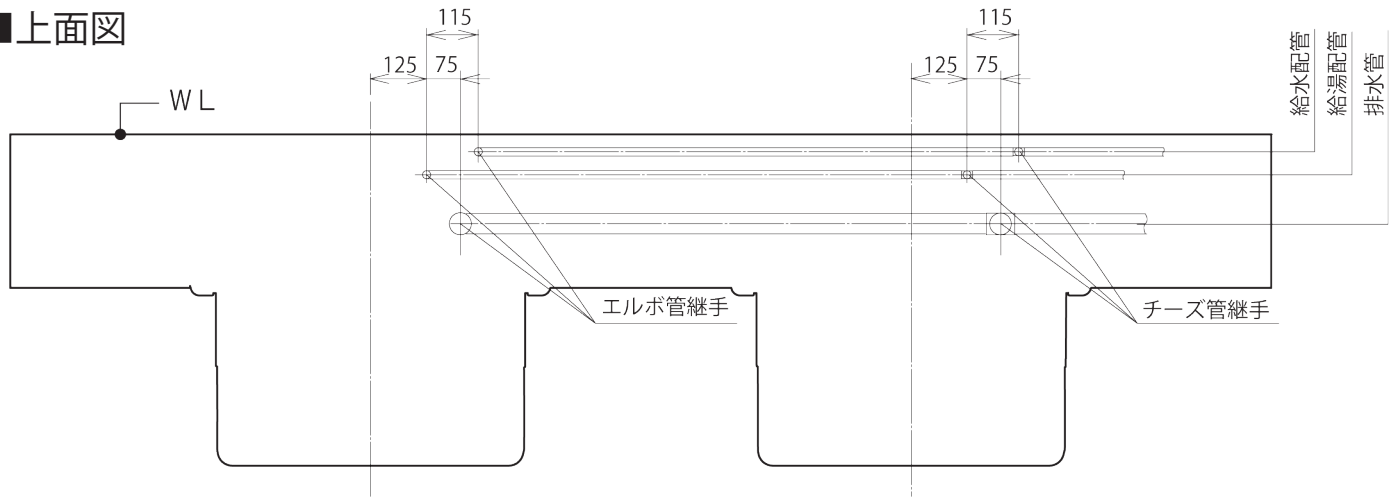
- ◆ 左記の寸法は、製品により多少バラツキがあります。(公差内)
- ◆ 瓶箱の仕様 (S寸、旧L寸、L寸、LL寸) により外観寸法図の寸法が異なります。

※構成表で示した[総幅]は製品個々の合計寸法です。
 施工にあたっては、取付時の歪みなどから多少広くなります。
 特に取付面が両壁の場合は、寸法に余裕が必要です。

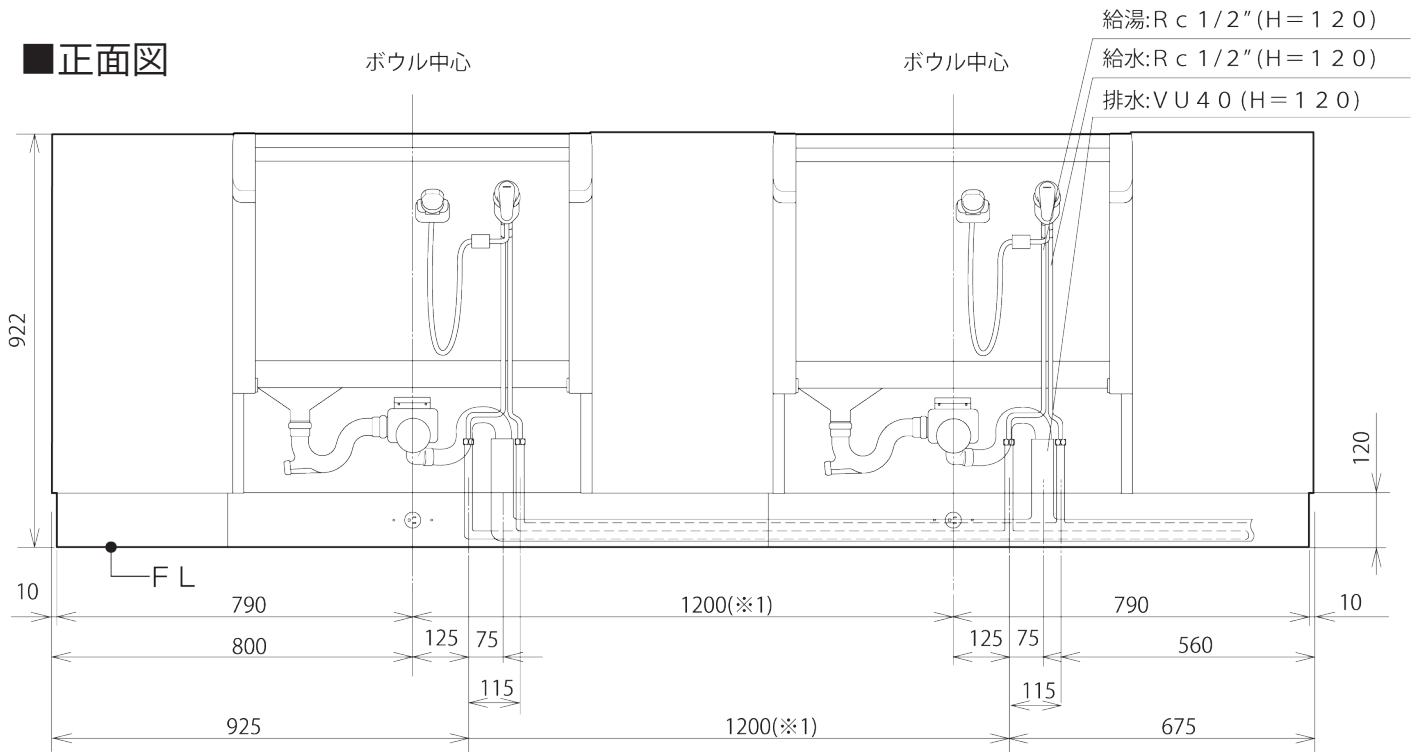
	S寸	450寸	L寸	LL寸
※1：瓶箱	400	450	500	650
※2：巾木	1200	1250	1300	1450
※3：ポウル中心間ピッチ	1200	1250	1300	1450
※4：総幅	2800	2850	2900	3050

<配管寸法図>

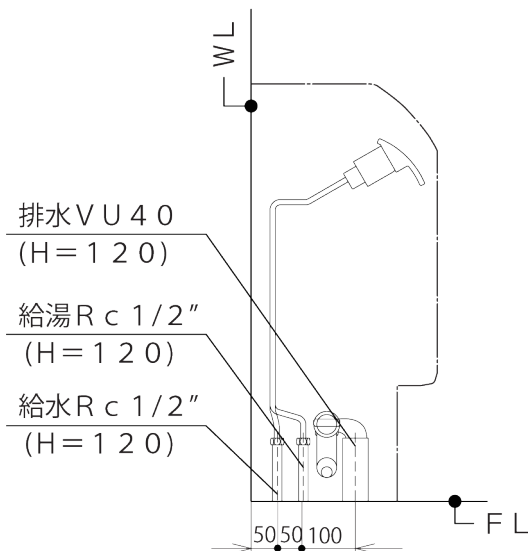
■上面図



■正面図



■側面図



※瓶箱の仕様（S寸、450寸、L寸、LL寸）により外観寸法図の寸法が異なります。

	S寸	450寸	L寸	LL寸
※1	1200	1250	1300	1450

<配管立上寸法>

給水管・・・H=120
給湯管・・・H=120
排水管・・・H=120

■電源について

瓶箱：単相100V電源工事を行い、定格15A以上の100V用コンセントを設置してください。

ただし、電源1回路には、瓶箱サービスコンセントの接続は2つまでにしてください。

巾木：単相100V電源工事を行い、定格15A以上の100V用アース端子付きコンセントを設置してください。

保温器：単相100V電源工事を行い、定格15A以上の100V用アース端子付きコンセントを設置してください。
(電源1回路につき、巾木のみ又は、巾木と保温器を接続します。)

■接地工事について

万一の感電における事故防止、および制御回路の耐ノイズ性を向上させるため、必ず本製品専用のアースを設けてください。

●D種以上の接地工事を行う

電気機器にはD種以上の接地工事を行うことが法令で義務付けられています。

D種接地工事を必ず実施してください。なお、接地工事は必ず電気工事士の資格を持った方が行ってください。

●次のようなところにはアース線をしないでください。

○水道管：配管の途中が塩化ビニル管の場合、アースされません。

○ガス管：爆発や引火の危険性があります。

○電話線・避雷針：落雷時、大きな電流が流れ危険です。



注意

電源プラグの取扱い

電源プラグは、ほこりの付着がないことを確認し、
がたつきのないように刃の根元まで確実に差し込んでください。
ほこりが付着したり、接続が不完全な場合は感電や火災の原因となります。

電源コードの取扱い

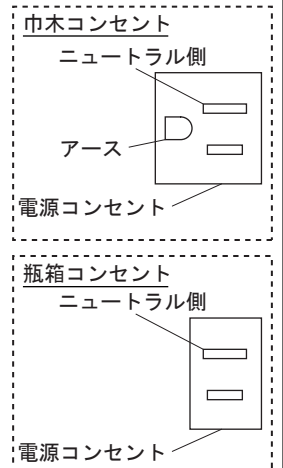
電源コードに無理な力をかけたり、加工、ねじり、曲げなどしないでください。
また重い物を乗せたり、挟み込んだ場合、電源コードが破損し、感電や火災の原因となります。

コンセントの取扱い

コンセントは単独で使用し、必ずアース端子付きコンセントを使用してください。
たこ足配線にすると、分岐コンセント部が異常発熱して発火することがあります。

ブレーカーおよびヒューズの取扱い

ブレーカーおよびヒューズは必ずコンセントごとに準備し、
白線がニュートラルであることを確認の上、
コンセントのニュートラル側に正しく接続されていることを確認してください。
間違えて設置すると、感電の原因となります。



■床面について

○床面材料・床面仕上げ材は、防水材もしくは防水加工したものを使用してください。

○床面は必ず水平を確保してください。

○床面は、取付部分に凹凸がないよう平滑にしてください。

○配管立上について

給湯・給水	Rc 1/2 "	床面立ち上げ配管	立ち上げ寸法	給湯：120mm	給水：120mm
排水	VU40	床面立ち上げ配管	立ち上げ寸法	120mm	

○床面には以下の強度が必要です。

木製床の場合	ベニア厚は30mm以上(15mm板2枚重ね以上)です。
モルタル床の場合	モルタル厚は50mm以上です。
特殊な床(石張り等)の場合	設置位置に上記の強度を確保した土台が必要です。

■壁面について

○壁面取付のための壁面下地は12mm厚コンパネ以上の強度が必要です。

石膏ボードや12mm以下のベニアの場合、指定位置に木棧を入れて補強してください。(2ページ参照)

○壁面仕上げは、メラミン等の防水性の高い材料を使用してください。

(シャンプー時の水はねが考えられます。)

■漏水対策について

○階上設置される場合は、必ず防水処置(防水工事、ステンレス鋼板製等のパンの設置、もしくは漏水センサーの設置等)を行ってください。

■配管施工について

ここに書かれた事項は、配管施工に関する重要な内容です。
この内容を十分にご確認の上、正しい配管工事を行ってください。

○本製品を設置されるときは、『タカラグループ給排水設備工事標準』、および本書の『配管施工上の注意』に基づいて配管施工を行ってください。注意を怠って配管されますと、ミキシングが満足に働かず、一定温度のお湯が得られないことがあります。

○本製品は室内専用です。設置は必ず室内に行ってください。

■配管施工上の注意

○給水（一次給水）配管

- ・市水道直圧管の場合、各水道局指定の工事店に依頼し、その地域の“水道局施工基準”等の法規に従って工事を行ってください。
- ・市水道直圧管以外（高架水槽下り給水管等）の場合、その地域の“水道局施工基準”等の法規に従って工事を行ってください。

○給水配管には錆の発生する管材料は使用しないでください。

原則としてV P管または、その地域の指定材料をご使用ください。

○給湯配管には原則として脱酸銅管、Lタイプを使用してください。

○給湯・給水配管は原則として同径同圧にしてください。

○管の切断面は必ずリーマをかけてバリ取りをしてください。

○空気溜りの原因となる逆U字配管（鳥居配管）は避けてください。

○給湯・給水管内の配管くず・ゴミ・砂・油はトラブルの原因になりますので、必ず除去してから配管接続をしてください。

○配管接続を行い、通水テスト後にストレーナーおよびシャワーヘッドの掃除をしてください。

○排水管の勾配は、排水管径φ75未満は1/50以上、φ75以上は1/100以上にしてください。

○湯・水を逆配管しないでください。

逆配管は水栓金具の温度調節不良の原因になり、やけどの危険があるなどトラブルの原因となります。

○給湯機からの給湯配管は、抵抗を少なくするため最短距離にしてください。

長くすると温度変化やお湯の出が悪くなる原因になります。

○配管後は、必ず保温材を巻いてください。

○温水ボイラーの配管について

- ・給湯本管・給水本管は原則として同径同圧にしてください。
- ・温水ボイラー設置については、必ず専門業者に施工依頼してください。

○器具にヘアキャッチャーが内蔵されています。

使用条件

■使用給湯・給水条件

使用水	<ul style="list-style-type: none">・上水道水（飲料不可の井戸水やサビ・砂を含んだ水は使用しないでください。）・硬度が80ppm以上の場合は、ポウル本体へのスケール詰まりを予防するため、軟水器による処理を行ってください。また、飲料可能な井戸水の場合、シャンプー時に泡が立ちにくい場合がありますので、同様に軟水器による処理を行ってください。
給湯・給水圧力	<ul style="list-style-type: none">・0.1～0.4MPa（1～4kgf/cm²）の範囲にしてください。また、複数台での使用の場合でも0.1MPa（1kgf/cm²）以下にならないようにしてください。・給水圧力≧給湯圧力にしてください。・給湯圧力と給水圧力の差は、0.2MPa（2kgf/cm²）以内にしてください。
機器への給湯温度	<ul style="list-style-type: none">・給湯温度は80℃以下にしてください。・使用シャワー温度より10℃以上高くしてください。
給湯機	<ul style="list-style-type: none">・給湯機は、理美容サロン専用の暖流システムのご使用をおすすめします。その場合の施工方法は、『タカラ同時給湯システム暖流工事の手引き』を参照してください。・瞬間湯沸かし器をご使用の場合は、16号以上を使用してください。（洗髪能力は瞬間湯沸かし器1台につき、EXCELA機器本体1台です。）・貯湯式ボイラーをご使用の場合は、貯湯式ボイラー説明書を参照してください。・給湯には蒸気を使用しないでください。